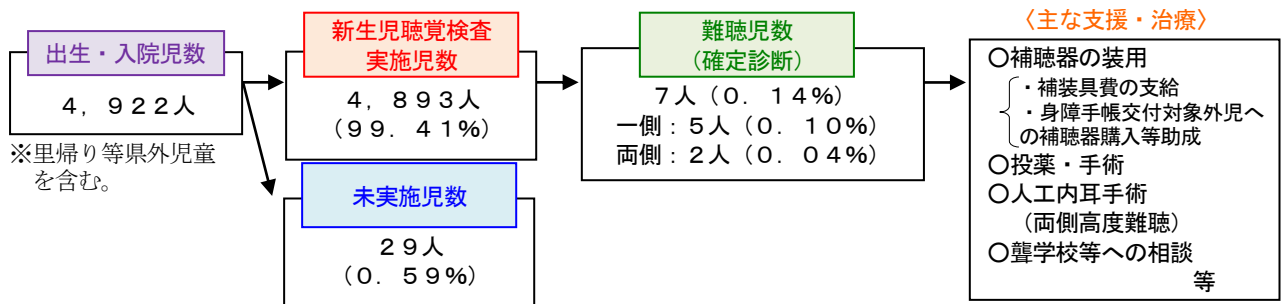


平成30年度新生児聴覚検査実施状況のまとめ

令和2年1月
鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局
子ども発達支援課

- ・新生児聴覚検査は、聴覚障がい早期発見し、早期に児童及び保護者に支援を行うことを目的としている。
- ・県内の分娩取扱産科16施設について、新生児聴覚検査実施状況の調査を行った。(全分娩取扱施設で実施。)
- ・平成30年度の県全体の新生児聴覚検査実施率は99.4%(前年度99.2%)で高い実施率を保持している。
- ・このことは、医療機関等のご理解とご協力により、保護者の理解が進んだことによると考えられ、新生児聴覚検査の早期発見及び早期支援体制の構築に繋がっている。
- ・県全体で難聴の確定診断を受けたのは7人(一側難聴5人/両側難聴2人)で、新生児聴覚検査実施児数(4,893人)の0.14%であった。

【聴覚障がい児発見と支援・治療の全体像】



〈参考〉

H30年県出生数…4,190人

1 新生児聴覚検査実施状況について

- ・県全体の検査実施率は99.4%で、前年度と比べ0.2%増加した。
- ・NICU入院児の検査実施率は100%で、前年度と同比であった。
- ・NICU入院児を除いた検査実施率は99.3%で、前年度と比べ0.1%増加した。
- ・未実施の理由は、「保護者が希望しない」「経済的理由」であった。

2 精密検査実施状況について

- ・NICU入院児の難聴児数は、一側難聴が1人(中等度)、両側難聴が1人(軽度)であった。
- ・NICU入院児を除いた難聴児数は、一側難聴が4人(高度:2人、精査中:2人)、両側難聴が1人(高度)であった。

3 市町村及び保健所訪問指導等実施状況について

- ・相談件数は8件(新生児訪問での相談:8件)で、保健師による支援が実施された。

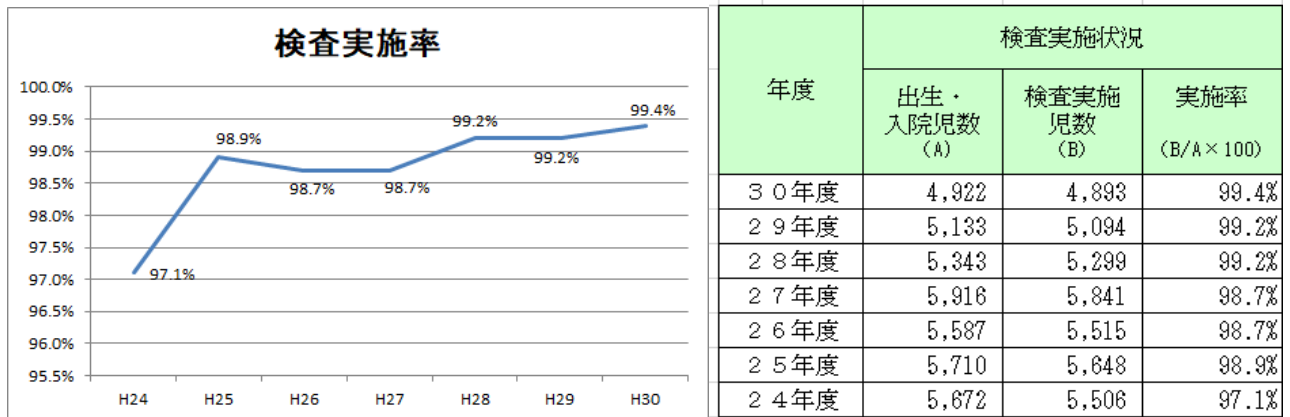
4 療育・教育指導実施状況

- ・新生児聴覚検査を受けてリファーターとなり、療育・教育を開始したのは9人で、うち8人は県内精密検査実施機関から、うち1人は発達支援員からの紹介によるものであった。

資料

1 新生児聴覚検査実施状況

・県全体の検査実施率は、99.4%(前年度99.2%)となった。



年度	検査実施状況		
	出生・入院児数 (A)	検査実施児数 (B)	実施率 (B/A×100)
30年度	4,922	4,893	99.4%
29年度	5,133	5,094	99.2%
28年度	5,343	5,299	99.2%
27年度	5,916	5,841	98.7%
26年度	5,587	5,515	98.7%
25年度	5,710	5,648	98.9%
24年度	5,672	5,506	97.1%

(1) NICU 入院児の状況

①実施状況

・全体の検査実施率は、100%であり、前年度と同比であった。

(H27年度：99.2%、H28年度：99.6%、H29年度：100%)

圏域	検査実施状況			検査結果			確認検査(1ヶ月健診時)		精密検査紹介数		
	医療機関入院児数	検査実施児数	実施率	パス	リファー	リファー率	パス	リファー	県内耳鼻科	県外耳鼻科	その他
東部	241	241	100.0%	236	5	2.07%	2	0	3	0	0
中部	86	86	100.0%	83	3	3.49%	0	0	3	0	0
西部	245	245	100.0%	241	4	1.63%	0	0	4	0	0
合計	572	572	100.0%	560	12	2.10%	2	0	10	0	0

※検査結果：パス→正常、リファー→要再検査

②検査機器別実施状況

すべてのNICU医療機関で、検査機器はAABRを使用。

(2) NICU 入院児を除いた状況

①実施状況

・検査実施率は99.3%であり、前年度と比べ0.1%増加した。

(H27年度：98.7%、H28年度：99.1%、H29年度：99.2%)

・未実施の理由は「保護者が希望しない」「経済的理由」であった。

・実施率を圏域別で見ると、東部が99.9%(前年度0.1%減)、中部は97.1%(前年度比0.5%減)、西部は99.7%(前年度比0.6%増)となっている。

圏域	検査実施状況			入院中検査			確認検査(1ヶ月健診時)		精密検査紹介数		
	医療機関出生児数	検査実施児数	実施率	パス	リファー	リファー率	パス	リファー	県内耳鼻科	県外耳鼻科	その他
東部	1,695	1,693	99.9%	1,652	41	2.42%	30	10	11	0	0
中部	751	729	97.1%	728	1	0.14%	0	1	1	0	0
西部	1,904	1,899	99.7%	1,871	28	1.47%	18	7	9	0	0
合計	4,350	4,321	99.3%	4,251	70	1.62%	48	18	21	0	0

※入院中検査でリファーとなった70人のうち、東部1人、西部3人が確認検査(1ヶ月健診時)前に精密検査機関を紹介。

※西部で確認検査(1ヶ月健診時)でリファーだった7人のうち、1人が未受診のため精密検査機関を紹介できていない。

②検査機器別実施状況

県全体としての検査機器ごとのリファー率は、下表のとおりである。

検査実施16施設のうち、AABR使用は10施設(62.5%)、OAE使用は5施設(31.2%)、併用1施設(6.3%)である。

検査機器	検査件数 (A)	リファー (B)	リファー 率 (B/A)
AABR	2,735	13	0.48%
OAE	1,586	57	3.59%
30年度合計	4,321	70	1.62%
(参考)29年度合計	4,740	87	1.84%

※併用はAABRに計上

2 精密検査実施状況

・県全体で難聴の確定診断を受けたのは31人で、新生児聴覚検査実施児数(4,893人)の0.6%であった。

(1) NICU入院児の状況

①精密検査の受診状況

新生児聴覚検査の結果、県内NICUから県内精密検査機関(※)への紹介は10人であり、精密検査機関を受診したのは2人だった。

圏域	精密検査紹介数			受診状況 精密検査 受診者数
	県内NICUか らの紹介	県外医療機 関への紹介	その他	
東部	3	0	0	0
中部	3	0	0	0
西部	4	0	0	2
30年度合計	10	0	0	2
(参考)29年度合計	9	0	0	4

※県内精密検査機関:県立中央病院、鳥取赤十字病院、県立厚生病院、鳥取大学医学部附属病院、山陰労災病院の5機関

②実施状況

出産のための入院中の検査でリファーとなっていた児童が、精密検査の結果、確定診断されたのは2人中2人(100%)であった。

	スクリーニング結果			精密検査結果			
	県内NICU からの紹介	県外 医療機関 からの紹介	検査機器	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断 未
全県	2	0	AABR	1	1	0	0
合計				1	1	0	0

③難聴児の聴力の内訳と紹介人数

NICU入院児の難聴児の聴力の内訳は、以下のとおりである。県内の聾学校への紹介は1件であった。

	程度	一側難聴	両側難聴	紹介件数	
				県内の 聾学校へ	県外の難聴 児教育施設 等へ
全県	軽度難聴	0	1	1	0
	中等度難聴	1	0		
	高度難聴	0	0		
合計		1	1	1	0

(2) NICU 入院児を除いた状況

①精密検査の受診状況

新生児聴覚検査の結果、県内の産科から県内精密検査機関への紹介は21人、県外から県内精密検査機関への紹介は1人である。また、県内精密検査機関を受診したのは28人だった。

圏域	精密検査紹介数(1ヶ月健診)			精密検査受診者数
	県内産科からの紹介	県外医療機関からの紹介	その他	
東部	11	0	0	10
中部	1	0	0	4
西部	9	1	0	14
30年度小計	21	1	0	28
(参考)29年度小計	33	2	0	37

②実施状況

出産のための入院中の検査でリファーとなっていた児童が、精密検査の結果、確定診断されたのは全体で28人中5人(17.9%)、AABRでは11人中2人(18.2%)、OAEでは、17人中3人(17.6%)であった。

	スクリーニング結果				精密検査結果			
	県内産科からの紹介	県外産科からの紹介	検査機器	人数	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断未
全県	27	1	AABR	11	1	1	7	2
			OAE	17	3	0	11	3
合計				28	4	1	18	5

③難聴児の聴力の内訳と紹介人数

NICU 入院児を除いた難聴児の聴力の内訳は、以下のとおりである。県内の聾学校への紹介は2人、県外の難聴児教育施設等への紹介は1人、その他は0人だった。

	程度	一側難聴	両側難聴	正常	不明	紹介件数		
						県内の聾学校へ	県外の難聴児教育施設等へ	その他
全県	軽度難聴	0	0	18	7	2	1	0
	中程度難聴	0	0					
	高度難聴	2	1					
合計		2	1	18	7	2	1	0

※不明の7人のうち、5人は確定診断未、2人(一側確定)は聴力程度精査中。

3 市町村及び保健所訪問指導等実施状況

市町村保健師が実施した訪問指導等の内訳は、以下のとおりである。

新生児訪問の際に保護者から相談を受けた事例が8人であった。

区分	相談件数	関係機関からの指導依頼				新生児訪問での相談	健診・予防接種等の場	その他の経路による相談	電話相談
		新生児クリニック*実施医療機関から	聴覚精検実施医療機関から	保健所から	その他の機関から				
東部圏域市町村・保健所	1	0	0	0	0	1	0	0	0
中部圏域市町村・保健所	7	0	0	0	0	7	0	0	0
西部圏域市町村・保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	0	0	0	0	8	0	0	0

4 療育・教育機関での指導実施状況

聾学校での療育・教育の開始人数は9人であった。

県内精密検査機関からの紹介が8人、その他が1人だった。

療育・教育機関	人数	紹介者		
		県内精密検査機関	保健師	その他
聾学校	9	8	0	1
その他	0	0	0	0
合計	9	8	0	1

5 参考

平成30年鳥取県出生数 4, 190人